

## 新国立競技場への提言

# イベント学から見たスタジアムの未来像

「スタジアムイベント研究会（座長 萩裕美子 東海大学教授）」は、10月20日に名古屋市で開催されたイベント学会研究大会において、「新国立競技場への提言-イベント学から見たスタジアムの未来像-」と題した研究発表を行いました。

新国立競技場の整備を巡っては、施設のデザイン、工費、工期等の面から様々な議論が交わされてきました。私たちはこうしたプロセスを尊重しつつ、イベントロジー=イベント学の視点から、これからのスタジアムの整備と活用のあり方について研究を行ってきました。オリンピック憲章、オリンピックアジェンダ2020、そしてスポーツ庁設置の理念などに示されたこれからのスポーツ文化のあり方、スポーツが社会のなかで果たすべき役割を踏まえ、東京オリンピック・パラリンピックが持続可能で多様なスポーツコミュニティ形成の契機となることを目指し、3つの部会からの研究発表を行いました。

なお本発表は中間発表となります。本年12月には、本発表での議論の成果も踏まえ、政府、自治体、関係団体などに向けて政策提言を行います。

## 「スタジアムイベント研究会」共同発表（中間報告）の概要

（日時）10月20日（火）12:50～14:10（80分）

（場所）ミッドランドホール 会議室A

名古屋市中村区名駅4-7-1 ミッドランドスクエア オフィスタワー5F

（テーマ）

### 「新国立競技場への提言

#### -イベント学から見たスタジアムの未来像-

（発表者と研究テーマ）

○スタジアムは市民一人一人が活躍できる幸福社会実現の舞台

萩裕美子（スタジアムイベント研究会 座長）

○スポーツ MICE 産業の可能性-新国立競技場をスポーツ MICE の殿堂へ-

福井昌平（株式会社コミュニケーション・デザイン研究所）

○都市政策とスタジアム-神宮外苑スタジアムパーク構想-

橋爪紳也（大阪府立大学21世紀科学研究機構 教授）

○稼げるスタジアム-これからの公共スタジアムの再整備と運営のあり方を探る-

小松史郎（集客都市研究所）

本件に関するお問い合わせは下記までお願いします

イベント学会 スタジアムイベント研究会 事務局

〒105-0013 東京都港区浜松町1-21-4 崇城大学会館2階

TEL 03-3459-8356 FAX 03-3459-8354

事務局長 小林 政則（イベント学会理事）

## 【中間発表の要点】

### 新国立競技場への提言

## イベント学から見たスタジアムの未来像

### ①スタジアムは市民一人一人が活躍できる幸福社会実現の舞台

スタジアムはアスリートのための競技スポーツの場であるとともに、多様な市民に開かれた公共の場であるべきです。超高齢化社会の到来により重要性を増す健康増進、医療費の削減のため、また成熟社会におけるクオリティ・オブ・ライフの向上のため、より多くの市民がスポーツに触れ、スポーツコミュニティに参加する。それこそが東京オリンピック・パラリンピックのレガシーであるべきであり、スタジアムは市民一人一人の健康と幸福を実現するためのプラットフォームとなるべきです。

### ②スポーツ MICE 産業の可能性-新国立競技場をスポーツ MICE の殿堂へ-

国際スポーツの先進地域では、スポーツが本来有する「触れる」「啓発される」「参加する」「体験する」「楽しむ」「持続する」機会と場を広げるために、会議・見本市・展示会・ラーニングプログラム・ツーリズム等、「スポーツ MICE」と呼べる幅広い交流事業を展開しています。スポーツ MICE の広がりや深まりの舞台として、全国の大型競技施設の活性化を展望しながら、まずは、「新国立競技場」の豊かな可能性を検証し、提言します。

### ③都市政策とスタジアム-神宮外苑スタジアムパーク構想-

スタジアムは都市の魅力創造にも重要な役割を果たしています。また、スタジアムの魅力は競技施設そのものだけでなく、その周辺の広場、公園、街区と連携することではじめて最大化されます。国立競技場と神宮外苑をモデルケースに、スタジアムとその周辺環境を一体的に活用する、地方でも活用可能なイベントマーケティングモデルを提案します。

### ④稼げるスタジアム-これからの公共スタジアムの再整備と運営のあり方を探る-

今後待ったなしの改修期を迎える全国で 100 を超える大型公共スタジアムを、持続させていくためには収益性を確保できるスタジアム経営がなによりも大切です。そのためには、スタジアム自体を多機能化・複合化させ、民間の協力が得やすく、なおかつ地域の人々にとっても魅力的な施設として再整備することが必要です。新国立競技場も、大会終了後に民間事業に移行する際には、そのようなスタジアムを目指すべきと考えます。このような移行が無駄なくスムーズに行われるためには、現段階の整備計画が民営化のために再整備することを前提としたものであることと、新たな PPP 手法として注目を集めているコンセッション手法を活用した整備・運営方式を採用することを提案します。

### ⑤新国立競技場を全国のスタジアムのお手本に

新国立競技場は、これからのスタジアムのあり方を、全国へ、世界へと発信する施設です。そして新国立競技場の整備にあたっては、そこで展開されるソフトを勘案したイベント視点からの事前検討が欠かせないと考えます。私たちの研究成果は、新国立競技場はもちろん、老朽化が問題となっている全国各地のスタジアムにも応用可能なものと考えます。スタジアムの活性化を地方創生につなげていくために、今後もイベントの専門家としての経験と知恵を結集していきます。

## イベント学会「スタジアムイベント研究会」の概要

### (設立趣旨)

2020 東京オリンピック・パラリンピックとポスト東京オリパラを踏まえ、新国立競技場をはじめとする大型スタジアムにおけるイベントのあるべき事業プランを研究し、政策提言を行います。

### (設立日)

2015年6月4日

### (役員)

座長 萩 裕美子 (東海大学体育学部 教授)  
副座長 小松 史郎 (集客都市研究所 代表)  
副座長 橋爪 紳也 (大阪府立大学 21 世紀科学研究機構 教授)  
副座長 福井 昌平 (コミュニケーション・デザイン研究所 代表)  
副座長 小林 政則 (イベント支援ネットワーク 代表)  
監事 上代圭子 (東京国際大学 准教授)  
監事 宮木宗治 (東洋大学 客員教授)

### (研究員)

岩崎 博 (エスシー・プランニング・オフィス)  
大根田 利夫 (ダーツ)  
奥野 圭 (オリエンタルランド)  
梶原 貞幸 (淑徳大学)  
清宮 浩一 (清宮地域総合計画室)  
工藤 康宏 (順天堂大学)  
澤内 隆 (港区観光協会)  
澤崎 宏 (計画・環境建築)  
澤田裕二 (SD)  
野川春夫 (順天堂大学)  
濱口 博行 (広島経済大学)  
牧村 真史 (集客創造研究所)  
増田 豊仁 (プランニングオフィスキュー)  
松本 眞一 (生涯スポーツ社会創生研究所)  
守屋 慎一郎 (ワコールアートセンター)  
師岡 文男 (上智大学)

## (研究方針)

### スタジアムイベント研究会 萩裕美子 座長

「スタジアムイベント研究会」はこれまで多様なイベント研究に携わってきた研究者と経験豊かな実務者がイベント学会内に特別チームを編成し、日本と世界が抱える大型スタジアムの今日的課題を解決しながら、2020年のオリンピックを契機に世の中を変えてゆく研究活動と政策提言を行います。

具体的には3つのテーマで研究を進めてゆきます。

- ・大型スタジアムを持続可能なものにするために必要なシステムとは何か。
- ・そのためのイベントプログラムはどうあるべきか。
- ・スポーツを核にした大型スタジアムの社会的資源としての価値はなにか。

研究方法は大型スタジアムをめぐるこれまでの問題点を洗い出し、世界の成功事例を参考にしながら新たなスタジアムの在り方を追求して提言につなげます。

本研究会は学術研究団体として公益性、公平性、透明性を研究活動の基本姿勢としながら、空理空論に終始せず持続可能なスタジアムイベントの研究・提言の実現を目指して政府、地方自治体、関係団体、産業界、メディアのみなさまと連携して活動してゆきます。

#### 萩 裕美子 (はぎ ゆみこ) イベント学会理事

東京学芸大学教育学部特別教科教員養成課程保健体育科卒業。鹿屋体育大学講師、助教授、教授を経て東海大学体育学部教授、現在に至る。日本生涯スポーツ学会会員(理事、学会誌編集委員)、日本スポーツ栄養学会会員(監事、評議員)、文科省「全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する検討会」委員、東京体育学会理事、イベント学会理事、ほか多数。保健学博士(保博乙第4号)。

## (テーマ研究部会)

### ① 「コンセッション部会」 小松史郎 部会長

【テーマ】 稼げるスタジアム

【研究のねらい】

国と地方の負債が1200兆円を超える時代に、今後わが国の公共スタジアムは待ったなしの更新期を迎える。公設民営で整備運営してきたわが国の公共スタジアムには最早限界が見え始めており、今後の改修・運営に対して新たなPPP手法でコンセッションの期待が集まっている。コンセッションの実現のためは、公共側の大幅な規制緩和もさることながら、民間側のスタジアムの再整備や維持管理、運営等に係るコスト削減のノウハウではなく、収益力の確保とその向上に係るノウハウの導入が成功の鍵を握る。収益力は、PPPのパートナーとなる民間企業としての利益追求のためではなく、公共スポーツ施設として役割を担う、スタジアムそれ自体を持続的に維持する財政基盤を築くために是非とも必要である。そのためにはアスリート・ファーストだけの体育施設であってはならない。大型のスポーツイベントが行われない日でも、多くの人々が集まる文化的イベントが行われ、様々なビジネス機会が創出されるような収益力が確保され、地元にとっても魅力的な多目的施設であらねばならない。

公共スタジアムを巡る以上の背景から、新国立競技場だけではなく、わが国におよそ100施設以上存在する大型のスタジアムを対象に、スタジアム経営の立場から、今後どのようなコンセプトで

どんな事業を行い、民間とのパートナーシップを前提に改修・運営を実現していくべきかを明らかにすることを目的とする。このような観点から本研究部会のテーマは『稼げるスタジアム』と名付けた。「コンセション研究部会」の最終的なゴールとしては、このようにスタジアムにおける収益事業の開発を目指す中で、公共スポーツ施設として公益性と調和を図るような事業手法としてのコンセションのあり方を探るとともに、今後のスタジアムの改修に対して運営（ソフト）の立場からの整備（ハード）与件の提示のあり方を探ることを目指すものとする。

#### **小松 史郎（こまつ しろう） イベント学会会員**

1972年上智大学大学院経済学専攻修了。1972年（株）三菱総合研究所入社、集客文化環境部長を経て退社。2009年、東京都市大学都市生活学部教授。2013年より集客文化研究所代表。東京都市大学非常勤講師。2009～2010年、成田カジノ構想有識者会議座長。2012～2015年東京都多摩ビジョン連携推進会議経済産業観光部会長。国際観光学研究会会員。日本コンベンション研究会会員。

### **② 「イベントプログラム部会」橋爪紳也 部会長**

【テーマ】神宮外苑スタジアムパーク構想

【研究のねらい】

オリンピック憲章では、スポーツと文化と教育の融合を「オリンピズムの根本原理」にうたっている。同様にスタジアムも「スポーツの殿堂」であると同時に「文化の殿堂」であり、なによりも「教育の場」でなくてはならない。すなわちスタジアムはアスリートをはじめとして多くの人々が集うコミュニティ拠点であり、さらには都市観光の資産、新たな都市創造への大きな力ともなる。

「イベントプログラム研究部会」では、新国立競技場をはじめ全国の大型スタジアムのこうした社会的意義、都市の魅力創造に資する大型スタジアムの可能性を考察し、大型スタジアムや競技施設が立地する広場や公園、周囲の街区までを対象エリアとした「新しいイベントマーケティング・モデル」の開発を行い、イベント主催者、スタジアム管理者の事業展開に対する支援策を提案する。

#### **橋爪 紳也（はしづめ しんや） イベント学会副会長**

1960年大阪市生まれ。京都大学工学部建築学科卒業。京都大学大学院工学研究科修士課程修了。大阪大学大学院工学研究科博士課程修了。建築史・都市文化論専攻。工学博士。都市観光や建築に関する著作は数十冊。現在、大阪府立大学21世紀科学研究機構教授、大阪府立大学観光産業戦略研究所長、大阪市立大学都市研究プラザ特任教授、国際日本文化研究センター客員教授、観光学術学会評議員、大阪府市文化振興会議会長、一般社団法人日本ディスプレイ業連合会理事などを兼職。

### **③ 「スポーツMICE部会」福井昌平 部会長**

【テーマ】国際的な潮流を踏まえた、「スポーツMICE」産業の可能性を広げる。

【研究のねらい】

IOCが、昨年11月に採択した『オリンピック アジェンダ 2020』では、これからのオリンピック・ムーブメントの「持続可能性と遺産」に関する決議が大きく取り上げられた。

特に、オリンピック・パラリンピック競技大会の経済・社会・環境に関わる全ての領域に「持続可能性」の施策を積極的に導入することと、幅広いスポーツ分野との連携の重要性を強調している。

今年度スタートした「スポーツ庁」でも、国民の生涯スポーツへの関わりを実現できる社会づくりを、大きく政策実現の目標に掲げている。

その為には、スポーツが本来有する、「触れる」「啓発される」「参加する」「体験する」「楽しむ」「持続する」機会と場を広げると同時に、スポーツが有する参加体験交流型 MICE 産業の可能性を進化させながら、持続可能で豊かなスポーツ・コミュニティの育成が推進される必要がある。「スポーツ MICE 研究部会」では、新国立競技場を初めとする全国の大型スポーツ競技場が、「トップアスリート・ファースト」の施設としてだけでなく、幅広い国民が触れ・参加し・体験できる持続可能な施設となり、スポーツ・コミュニティ形成の中核施設となる為のプロセスを構築する。その為には、スポーツが「スポーツ MICE」と呼べる幅広い参加体験交流事業の可能性を有していることを明確化させると同時に、新国立競技場を初めとする全国の大型スポーツ競技場がその中心的な舞台となる可能性と条件を明らかにする。

**福井 昌平 (ふくい しょうへい) イベント学会理事**

(株)コミュニケーション・デザイン研究所代表。長野冬季オリンピック招致／企画書作成業務。2002 年ワールドカップ招致特別アドバイザー。2005 年愛知万博チーフプロデューサー。2010 年平城遷都 1300 年記念事業チーフプロデューサー。2012 年麗水国際博日本館総合アドバイザー。2015 年ミラノ万博日本館総合プロデューサー。Email [fukui@cd-inst.co.jp](mailto:fukui@cd-inst.co.jp)

スタジアムイベント研究会に関するお問い合わせは下記までお願いします。

イベント学会 スタジアムイベント研究会 事務室

〒105-0013 東京都港区浜松町 1-21-4 崇城大学会館 2 階

TEL 03-3459-8356 FAX 03-3459-8354

事務室長 小林 政則 (イベント学会理事)

email [masanori.kobayashi@eventology.org](mailto:masanori.kobayashi@eventology.org) TEL 090-6790-7152